

獨協大学創立50周年記念

創立50周年記念館(仮称)建設および教育設備の充実

募 金 趣 意 書



創立50周年記念館(仮称)イメージ

ごあいさつ



獨協学園理事長

寺野 彰

獨協学園は、1881(明治14)年に新しい日本の創造を模索していた、西周(初代校長)、品川弥二郎、桂太郎、青木周蔵らによって設立された獨逸学協会に端を発し、2年後の1883(明治16)年に開校した獨逸学協会学校を母体としています。当時、世界の先進国のひとつであったドイツから、法制度、医学、科学などを導入する窓口としての役割を担った歴史が獨協学園には伝統として息づいています。

今日、獨協学園は先人の英知と努力のお陰で、獨協大学を始めとして、獨協医科大学、姫路獨協大学、獨協中学・高等学校、獨協埼玉中学高等学校等を有する大規模な学校法人として成長し、2013(平成25)年には、創立130周年を迎えました。そして獨協大学は、2014(平成26)年に創立50周年を迎え、さらなる発展のために改革を推し進めており、多くの資金を必要としています。

何卒、私どもの意図をご理解いただき、厚いご協力を賜りますよう、獨協学園を代表いたしまして、皆様方をお願い申し上げます。



獨協大学学長

犬井 正

獨協大学は、1964(昭和39)年、獨協学園中興の祖で、元文部大臣の哲学者・天野貞祐博士を初代学長として開学しました。以来、「語学の獨協」と称される独自の外国語教育を軸に、世界で活躍しうるグローバルな知識と豊かな人間性をもつ人材を育成してきました。現在、4学部11学科、4研究科、4研究所を擁する文系総合大学となりました。

大学の経営環境は少子化により厳しくなり、また、国立大学の法人化によって大学間の競争はさらに激しくなっています。しかし、こうした激動の時代は、同時に飛躍のチャンスでもあります。このような状況であるからこそ、天野貞祐先生の建学の精神「大学は学問を通じての人間形成の場である」という原点に立ち返り、その理念を社会に実現すべきであると考えています。

このたび創立50周年を機に、キャンパス再編事業の最終段階として、学生の人間形成に資する教育活動に専心し、その実行性を高めるため、最高の学習環境と安全で快適なキャンパスを目指して「創立50周年記念館(仮称)」の建設を行います。

皆様方におかれましては、本学の未来にける思いを是非ご理解いただき、獨協大学のさらなる充実、発展のため、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金の趣意

学校法人獨協学園は、その起源を1881(明治14)年創立の獨逸学協会とし、1883(明治16)年に開校した獨逸学協会学校から歴史を刻むこと130年の伝統を誇る、我が国屈指の学校法人です。

その中であって、獨協大学は、学園創立80周年記念事業として1964(昭和39)年に設立され、2014(平成26)年に創立50周年を迎えます。ご存知のとおり獨協大学は、獨協学園の中興の祖にして哲学者であり教育者である天野貞祐博士の教育にかける熱い思いによって生まれました。当時、天野先生による大学設立は社会的にインパクトを与え、時代を先取りした先生の構想は、今日も獨協大学の大きな指針として脈々と受け継がれております。

当初2学部3学科からスタートした大学は順調に発展し、建学理念に基づく広範な教養教育、すぐれた外国語教育を行いつつ、研究教育分野における時代の要請にこたえて現在では4学部11学科となり、さらに、大学院(3研究科)、専門職大学院(法科大学院)、独創的かつ学際的な研究を推進させるシンクタンクとしての4研究所を有するに至りました。

併せて、施設面においては、40年を経た時期を契機に、教室棟群の教育機能、省エネ環境機能、耐震機能の強化を図り、2007(平成19)年に天野貞祐記念館の竣工およびグラウンドの人工芝化を行い、2010(平成22)年には東棟を、2012(平成24)年には学生センターおよび別館を完成させるなど、大規模なキャンパスの再編計画を実現してきました。キャンパス周辺地域でも伝右川親水護岸の整備を行い、また、草加市、UR都市機構によって進められている松原団地全域を対象とした再開発プロジェクトに参画し、本学を地域の

中核に位置付けるプランの実現に参画しております。

このたび、獨協大学では、新教室棟「創立50周年記念館(仮称)」建設計画をキャンパス再編計画の次の段階として立ち上げました。この建物は、これから先の50年を支える教育の場となり、獨協大学の建学理念である「学問を通じての人間形成の場」として、また、学生の交流を誘発させる場として構想されています。構造は機能分離型で、知的生産性を高め学習効果を引き出す機能を持つ教室棟を中心としつつ、併設される管理棟は、免震構造による安全性を確保した建物とし、全学のエネルギーを統括するセンター、ICTの拠点、重要資料の永久保管庫を配置する予定です。全体に自然エネルギーを効率よく利用できる先進技術を取り入れるとともに、景観的には既存建物との調和を図ります。

本学といたしましては、経費の節減など自助努力に努め、健全な財政状況の維持を図りながら計画を進めておりますが、昨今の経済状況から学納金のみに依存する資金計画には限界が生じます。一連の建設資金につきましては、何分にも多額の資金を要する事業となることから、本学の教職員はもとより、卒業生、在学生のご父母、退職された教職員や厚志の方々、また、企業の皆様方にご助力をお願いする次第です。

現在の厳しい社会・経済情勢のもとでのお願いで、誠に恐縮ではありますが、創立50周年記念館(仮称)建設および教育設備の充実について、その趣旨をご理解いただき、本学の更なる発展のため、この募金にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

創立50周年記念館（仮称）

創立50周年記念館は、近年大学が進めてきた「キャンパス再編」の最終段階に向けた事業で、開学当初の施設が残るキャンパス西側部分を建設用地として想定しています。

建物は、知的生産性の向上に配慮した教室を中心とする教育の場の整備、学生同士の交流を促す人間形成の場の整備、さらに、既存施設のエネルギーセンター・ICT*拠点機能を移転させ、キャンパスの防災機能向上や非常時の事業継続性を高めます。

また、自然エネルギーの活用を中心とした省エネルギー・低炭素化を実現

する環境共生技術を建物に導入することで、本学が推進してきた環境との共生に向けた大学のあるべき姿を追求する「エコキャンパス・プロジェクト」をさらに進化させます。

建物の建設にあわせて、キャンパス内のランドスケープ整備も行います。広場など学生の憩いの場の充実、緑陰効果により省エネ効果を高める緑化空間、多様な生物を生息可能にする環境整備を行い、自然と人間の共生方法を学ぶ学習空間として整備します。

*ICT[Information and Communication Technology]
情報・通信に関連する技術一般の総称



創立50周年記念館（仮称）イメージ



天野貞祐
(1884~1980年)

獨協大学を創設した
カント哲学の権威

獨逸学協会学校中学出身、獨協大学創設者であり初代学長。第3次吉田内閣の文部大臣を務める。我が国で最初にカントの『純粹理性批判』の翻訳を完成し、カント哲学の権威として知られる。

教育効果を高める教室

本学の建学理念「大学は学問を通じての人間形成の場である」を具現化する知的創造の場となる教室は、教育効果を向上させる施設整備を目指し、ICT機器を用いた学生・教員間の新しいコミュニケーション方法による、効果的・効率的な学習環境を整備します。

また、教室群には様々な広さや設備を持つバリエーションに富んだ形態を与え、学習内容により最適な教室を選択・利用できるようにします。

空調設備は天井放射方式の機器を

採用し、省エネ効率の高い設備にすると共に、快適性の向上により知的生産性を高める学習環境を提供します。



獨協大学キャンパス再編の歩み

— 新しいキャンパスの創造に向けて —

本学は、創立50周年に向けて大学改革とキャンパス再編を加速させてまいりました。
2007年に国際教養学部を設置。2008年には法学部に総合政策学科を、2009年には外国語学部交流文化学科を、さらに2013年には経済学部国際環境経済学科を増設しました。
また、キャンパスでは「人と自然と建物が調和するキャンパス」を目指したエコキャンパスを推進しています。

2007

天野貞祐記念館 完成

創立40周年を記念し、2007年に完成した地上5階建て高さ33m、延床面積約29,500㎡という学内最大の建物です。

図書館を中心とする総合学術情報機能と教室機能を融合した本学における知の創造拠点です。



2010

東棟、敬和会館 完成

「東棟」は、「獨協大学キャンパス再編計画」第2期の中心的プロジェクトとして建設された、環境や省エネルギー性能にも優れた次世代型教育施設です。この建物を中心とする「省CO₂エコキャンパス・プロジェクト」は、国土交通省「平成21年度住宅・建築物省CO₂推進モデル事業」に採択されました。

また、松原団地駅前に、女子寮「敬和館」と「地域と子どもリーガルサービスセンター、法律事務所」「社会人向け大学院教室」の3機能を融合させた「敬和会館」が誕生しました。



東棟



敬和会館

2011

芝生広場 完成

2012

学生センター 完成

「すべての学生が利用できる開放的な施設」と学友会活動の「部室棟」の両機能を備えた可能性豊かな施設「学生センター」が獨協さくら橋のエントランスから続くプロムナード沿いに誕生しました。この建物は、自然エネルギーを最大限に生かした最新の省エネシステムを採用。また全ての学生が利用できる交流拠点としてのコンセプトが評価され、2013年度グッドデザイン賞を受賞しました。

その他、東棟南側には「芝生広場」が完成し、学生の憩いの場となっています。



学生センター



芝生広場

募 金 要 項

名称

獨協大学創立50周年記念事業寄付金募金
 ー創立50周年記念館(仮称)建設および教育設備の充実募金ー

募金目標額

2億円

募金の種類

個人 1口 1万円、できるだけ複数口でご協力をいただければ幸いです。
 法人 1口 10万円、できるだけ複数口でご協力をいただければ幸いです。
 ただし、個人、法人とも上記金額にかかわらず有難くお受けいたします。

募集期間

2013(平成25)年10月1日～2016(平成28)年3月31日

申込および振込方法

個人の場合

- この寄付金につきましては、税の優遇措置を受けることができますので、本学所定の「寄付申込書(個人用)」に必要事項をご記入の上、同封の返信用封筒にて獨協大学経理部会計課までお送りください。
- 同封の払込取扱票に必要事項をご記入の上、お振込みください。
 なお、払込手数料につきましては、無料(加入者負担)となります。
 *複数回にわたっての払込みをご希望の際は、別途払込取扱票等をお送りいたしますので、獨協大学経理部会計課までご連絡ください。

取扱機関：郵便局(ゆうちょ銀行)
 口座番号：00190-4-449935
 加入者名：創立50周年記念事業寄付金募金口

法人の場合

- この寄付金につきましては、税の優遇措置を受けることができます。つきましては、日本私立学校振興・共済事業団(以下「事業団」)あてに指定寄付金の申込手続きをする必要がありますので、同封の事業団所定の「寄付申込書(法人用)」に必要事項をご記入いただき、同封の返信用封筒にて獨協大学経理部会計課までお送りください。なお、事業団に対する諸手続きは本学が行います。
- 同封の振込依頼書に必要事項をご記入の上、お振込みください。
 なお、振込手数料につきましては、次の取扱銀行の本支店窓口をご利用の場合は、無料となります。

口座名義：創立50周年記念事業寄付金募金口

取扱銀行	支店名	種目	口座番号
三菱東京UFJ銀行	草加新田支店	普通預金	0087945
埼玉りそな銀行	松原支店	普通預金	4555994

寄付者の顕彰

獨協大学創立50周年記念事業寄付金募金(一創立50周年記念館(仮称)建設および教育設備の充実募金)にご寄付を賜りました皆様に対し、次のように寄付の記録と顕彰をさせていただきます。

1. 寄付者芳名録の作成

- (1) 寄付者のご芳名、法人名を永久に保存させていただきます。
- (2) 寄付者のご芳名、法人名を「獨協大学ニュース」にて公表させていただきます。

2. 銘板掲載

個人5万円以上、法人50万円以上の寄付者は、「創立50周年記念事業寄付金募金寄付者銘板(仮称)」にご芳名、法人名をしるし、未永く顕彰させていただきます。

3. 感謝状の贈呈

個人10万円以上、法人100万円以上の寄付者は、銘板掲載に併せて感謝状の贈呈をさせていただきます。

- * 個人の方で、顕彰を希望されない場合は、「寄付申込書(個人用)」の「寄付者顕彰」欄の「希望しません」を○で囲んでください。
- * ご寄付をいただいた方の個人情報につきましては、情報の管理に充分配慮いたします。当該目的以外に使用することはありません。

寄付金に対する税の優遇措置

【個人の場合】

個人からいただきました寄付金につきましては、文部科学省より寄付金控除の対象となる証明を受けており、所得税の寄付金控除の措置を受けることができます。

控除には、平成23年度の税制改正により加わった「税額控除」と従来の「所得控除」の2種類あり、どちらか一方の制度を寄付者自身が確定申告の際に選択していただけます。

控除額は、個人の所得、税率、寄付金額などの状況により異なりますが、所得税率に関係なく所得税額から直接控除される「税額控除」を選択した方が、多くの場合において「所得控除」よりも減税効果が大きくなります。

(1) 税額控除

寄付金額(所得の40%が限度)から2,000円を差し引いた額の40%を所得税額から控除できます。(ただし、所得税額の25%が上限)

(2) 所得控除

寄付金額(所得の40%が限度)から2,000円を差し引いた額を、所得(課税所得金額)から控除できます。

※確定申告に係る詳細につきましては、最寄の税務署にお問い合わせください。

【法人の場合(受配者指定寄付金)】

日本私立学校振興・共済事業団(以下「事業団」)の受配者指定寄付金制度を利用した寄付金は、寄付金額全額を当該事業年度の損金として算入できます。優遇措置を受けるための手続きには、事業団が発行する「寄付金受領書」が必要となります。これに関する事業団への諸手続きは、本学が行います。

なお、寄付金の受領日は、事業団が寄付金を受領した日となります。寄付金の受領日が、寄付金を支出した当該年度を過ぎると、その年度の損金算入が認められなくなります。

つきましては、決算日の1か月前までには本学への寄付金申込書の提出と寄付金のお振込みをしていただきますようお願い申し上げます。



問合せ先

獨協大学
〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1
URL <http://www.dokkyo.ac.jp>

募金趣意書・創立50周年記念事業に関すること

総合企画部総合企画課
TEL.048-946-1706(直通)
FAX.048-943-3160
e-mail:skikaku@stf.dokkyo.ac.jp

申込み・振込みに関すること

経理部会計課
TEL.048-946-1648・1649(直通)
FAX.048-946-1744
e-mail:kifukin@stf.dokkyo.ac.jp

*本状と行き違いにすでにご寄付をお申し込みの節は、
何とぞご容赦ください。